

海外安全対策情報（平成 30 年 4 月～6 月）

1 社会・治安情勢

（1）カラチ市

ア 2013 年 9 月以降、準軍組織レンジャー及びシンド州警察がパキスタン・タリバーン運動（TTP）等のテロ組織を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模な爆弾テロ等の阻止を図る通称「カラチ掃討作戦」を現在も継続しており、テロ、殺人、身代金目的誘拐の発生件数は減少しているが、強盗、窃盗等街頭犯罪の発生は高止まりであり、治安情勢は改善途上である。

イ 今期 4～6 月にかけて、テロ発生件数 1（7）件（以下カッコ内は前年同期）、死者数 0（7）名、負傷者数 3（4）名と前年比で件数及び死者数は激減、負傷者数は微減した。警察や治安機関に対する攻撃につき、頻度は大幅に減少したがいまだに発生している。

ウ 5 月中旬から 6 月中旬にかけてラマダンが行われたが、爆破テロ等大規模テロは 1 件も発生せず、平和裏に終了した。一方、街頭犯罪は強盗・強姦を含め全体として増加している。また、6 月後半から総選挙に向けた選挙活動が始まり、政治情勢が治安情勢に影響を与えないかが懸念される。

（2）バロチスタン州

ア パキスタンからの独立や同州の自治拡大を目的とする民族主義武装集団等による反政府活動や治安機関へのテロ攻撃が行われている。また、中パ経済回廊（CPEC）関連事業の従事者が襲撃される事件が発生するなど、治安情勢は不安定である。州都クエッタ市では宗教過激派等による異宗派、移民、治安機関を対象とした標的殺人や爆弾テロ事件が多発している。

イ 当期 4～6 月はテロ発生件数 33（31）件、死者数 62（79）名、負傷者数 85（111）名と件数は横ばいだが、死者数負傷者数は昨年より減少している。クエッタ市においては、警察や治安機関に加え、宗教少数派に対する襲撃事件や爆破テロ事件が頻発している。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）邦人関連事案

無し

（2）犯罪統計

カラチ市警察が発表した当期 4～6 月の犯罪統計によれば、カラチ掃討作戦の成果により、殺人、身代金目的誘拐は微減しているが、強盗、強姦は大幅に増加している。市民に身近な街頭犯罪の発生件数は全体として増大しているため、依然として防犯対

策の必要があり、十分な注意が必要である。

主な犯罪種別の内訳は以下のとおり。

- ・ 殺人 105 件 (115 件)
- ・ 身代金目的誘拐 6 件 (8 件)
- ・ 強盗 874 件 (718 件)
- ・ 強姦 49 件 (33 件)
- ・ 薬物所持 1, 353 件 (1, 103 件)
- ・ 武器不法所持 1, 951 件 (1, 437 件)

(3) 銃器使用による強盗 (ガンポイント)

当地では銃器を使用した強盗に注意する必要がある。今期においても昨年より発生件数が増加した。カラチ市における強盗の典型的な形態は、バイクに乗った2人組が、停止中の車両や歩行者を標的とする場合である。また、主要幹線道路上において交通渋滞で停車中の車両に対して次々と拳銃を突きつけ金品を強奪する手口も散見される。

3 主なテロ関連事案等 (報道ベース)

(1) シンド州・カラチ

- ① 4月4日、カラチ市グルシャネ・ジョウハル地区で、レンジャーが私服でパトロール中、強盗している2人組から発砲され、レンジャー隊員1名と通行人1人が負傷した。強盗は逃走した。
- ② 4月18日カラチ市オランギ地区カティ・パハリで、強姦被害に対し民衆が抗議運動を起こし警察と暴力的な衝突を起こし、警察官4人を含む12人が負傷し、1人が死亡した。
- ③ 4月21日カラチ市DHA地区PhaseVで、強盗から発砲を受け、警察官1名が死亡、1名負傷した。
- ④ 4月24日、カラチ市DHA地区カヤバネ・タリクにおいて、自宅前で男の子が誘拐されるも、同日中に犯人が射殺され、無事救出され同日午後自宅へと戻った。
- ⑤ 5月7日カラチ市グルシャン・イクバル地区のユニバーシティ・ロード上でPTI (パキスタン正義党) とPPP (パキスタン人民党) が衝突し、車両への放火、空中威嚇射撃及び投石が行われ、数名が負傷し周辺の交通・商業の機能が麻痺した。
- ⑥ 5月14日カラチ市DHA地区カヤバネ・ファイサルで若い男が刺殺された後、死体がシートに包まれた状態で証拠隠滅のため燃やされた。
- ⑦ 5月26日、シンド州ハイデラバード市セヘリシュ・ナガル地区で小規模の爆発が2回起き、鉄道線路に軽微な損傷を与えた。
- ⑧ 6月2日、シンド州とバロチスタン州の境界であるハブ近郊マヒ・ガルヒ・マザルで、レンジャーが所持品検査を実施中、男が自爆ジャケットにより自爆を試みたが射殺され阻止された。レンジャー隊員2名が負傷した。

- ⑨ 6月3日、カラチ市クリフトン地区ショーン・サークルで強盗2人組が拳銃で脅してカメラを強奪するも、付近を通りかかった市民に制止された。強盗が発砲するも市民に反撃され、片方は死亡し、もう片方は逮捕された。

(2) バロチスタン州

- ① 4月2日、クエッタ市においてキリスト教徒の家族が、リキシャーで移動中にバイクに乗った男から発砲され、4人が死亡した。ISILが犯行を認めた。
- ② 4月4日ケチ県ピンシン・カウル地区において、FCが捜索作戦を実行中、ミリタントと交戦となり、FC隊員1名が死亡し、ミリタント2名が死亡した。
- ③ 4月4日トウルバット大学のグワダル・キャンパスに配置された警察官が、発砲され、死亡した。
- ④ 4月9日クエッタ市近郊のベリリ地区において、巡回中だったFCの車両に対してテロリストが自爆し、FC隊員5人が負傷した。
- ⑤ 4月12日、コールー郡カハン地区において、男2人がバイクで移動中に地雷が発火し、1人が死亡、1人が負傷した。
- ⑥ 4月15日、クエッタ市エッサ・ナグリ地区のキリスト教会付近の路上において、祈祷して帰宅途中のキリスト教徒に対し、バイクに乗った犯人2人が発砲し、キリスト教徒2人が死亡、6人が負傷した。ISILが犯行を認めた。
- ⑦ 4月16日グワダル付近のイラン・パキスタン国境において、違法に入国したパキスタン人に対し、イランの国境警備隊が発砲し、2人が死亡し、5人が勾留された。
- ⑧ 4月19日、クエッタ市アブドウル・サッター・ロード沿いで、自分の店の中に座っていたハザラ人が、バイクに乗った何者かに5発の銃弾を受け、死亡した。
- ⑨ 4月21日、ケッチ県トウルバットにおいて非番のFC隊員が何者かに発砲され死亡した。
- ⑩ 4月22日、クエッタ市ウェスタン・バイパスにおいてハザラタウンから移動中のハザラ人3人がバイクに乗った何者かに発砲され、2人が死亡、1人が負傷した。
- ⑪ 4月23日早朝、イラン国境警備隊による越境砲撃が行われ、チャガイ地区、ノコンディ地区に着弾したが、居住区から離れた場所に着弾したため、被害無し。
- ⑫ 4月24日、クエッタ近郊のミアン・グニティ地区のFC駐屯地で2名の自爆テロ犯が、検問所付近でFCと銃撃戦となった。自爆テロ犯両名は、自爆・死亡したものの、FC隊員8人が負傷した。同日、クエッタのエアポートロードで、オートバイクに約10kgの爆発物を積載した自爆テロ犯が、警察トラックに突入し、少なくとも6名の警察官が死亡した。
- ⑬ 4月28日クエッタ市中心部のジャマルッディン・アフガニ・ロード地区で電気店にいたシーア派ハザラ人2人がバイクに乗った何者かに襲撃され殺害された。
- ⑭ 4月29日、クエッタ市ジャン・モハンマド・ロード地区で、バイクに乗った何者かが雑貨屋など複数の店に発砲し、3人が死亡、2人が負傷した。

- ⑮ 5月3日夜、イラン国境に近いカラン県で、携帯電話の電波塔設置に従事の労働者6人（パンジャブ州出身）が銃殺され、1名が負傷した。
- ⑯ 5月16日夜、キリ・アルマスにおいて、LeJの主要な指導者サルマン・バデニを含む3人のテロリストが警察により殺害された。交戦中に陸軍情報部大佐が殉職した。
- ⑰ 5月17日夜、クエッタ市において、FC本部に対しテロリストが車両により自爆テロを試みるも、正面ゲートのFC隊員が発砲し、全員が殺害され失敗した。
- ⑱ 5月19日、クエッタ市サリアブ・ロードで JUI-F の指導者がモスクから出たところを銃殺された。襲撃の原因は現在不明である。
- ⑲ 5月27日夜、クエッタ市シルキ・ロードで帰宅途中の交通警察官に対し、バイクに乗った犯人2人が発砲し、警察官2人が死亡、1人が負傷した。
- ⑳ 5月28日夜、デラ・ムラド・ジャマリにおいて、バイクに設置された爆弾の強力な爆発で、警察官3名を含む16人が負傷した。
- ㉑ 6月4日、マストウングの検問所付近で自爆テロが発生し、FC（辺境警備隊）3人が死亡し、ほか2人が負傷した。
- ㉒ 6月6日、日没後の祈りの際、クエッタ市アルバブ・カラム・カーン通りのモスク前の警察車両に対しバイクに乗った何者かが発砲し、警察官1人が死亡した。
- ㉓ 6月16日、クエッタ市郊外キリ・バンガルザイ地区で、礼拝を終え帰宅途中であった車両が襲撃され、部族警察官1名及び市民2名が複数の銃弾を受け死亡した。
- ㉔ 6月20日、クエッタのナワ・キリ地区で、警部補が運転する私有車が襲撃され同乗していた同警察官の叔父及び襲撃現場付近にいた8歳児が銃撃を受け死亡した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

カラチ市警察が発表した当期4～6月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は6件（前年同期8件）発生し、誘拐を巡る状況は改善している。しかし、昨年5月にバロチスタン州クエッタ市において中国人2名が誘拐・殺害されている。また、本年2月にカラチ市内において邦人が拳銃による強要被害に遭っており、誘拐事案に発展するおそれがあった。引き続き十分な注意が必要である。

当地では誘拐は資金獲得の手段となっており、同目的でテロ組織が犯行に及ぶ場合や、一般犯罪組織等が誘拐した被害者を売り渡す場合もある。犯罪者に隙を与えないよう目立たず、行動を予測されないようにする日常生活上の注意が必要である。

5 日本企業の安全に関する諸問題

（1）渡航の際の留意事項

当地では現在、TTP等テロ集団による治安機関に対する報復に対して警戒を強めている状況にある上、比較的警備の手薄ないわゆる「ソフトターゲット」がテロの標的とされる傾向にある。よって、当地へ渡航される場合は、事前に報道等によ

り最新の治安情報を確認するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、渡航の是非を充分検討していただきたい。

(2) 駐在される場合

当地ではテロの危険がある他、拳銃強盗等の街頭犯罪も頻発しており、実際に在留邦人被害の強盗事件も発生している。また、テロ集団等による営利を目的とした誘拐等の被害に遭う可能性も否定できないことから、当地に駐在される場合は、必ず外務省海外安全ホームページ掲載の「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け安全対策マニュアル」等各種安全対策資料や当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等をご活用の上、十分な安全対策を講じていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。

(以上)